

竹の子会の基本目標

1. 人間形成への修練
1. 地域社会への奉仕
1. 会員相互の親睦



竹の子会会報

No.606

竹の子会総務委員会

令和2年7月9日

第64期 終了のあいさつ



第64期
会長

川上 祐輔

令和元年7月1日より就任いたしました大垣竹の子会の会長職もこの6月30日を以て任期を終えることとなりました。

まずもって支えて頂いた現役会員の皆様、並びに多くのアドバイスを与えて頂いた特別会員の皆様、また自分が会長職を全う出来るよう協力してくれた家族にこの場をお借りして感謝を申し上げます。

今期64期は ～S・I・N 信頼・芯心・進歩～ をスローガンに掲げ、順調に事業を行ってきましたが新型コロナウイルス感染症という大きな問題が発生しました。

会といたしましては3月度例会の延期（中止が決定）を皮切りにそれ以降の事業が行えない状況となってしまいました。

今、この立場で一番感じるのは個人的な悔しさではなく、事業を計画・準備してきたのに中止となってしまった会員への申し訳ないという気持ちです。

2か月先の状況を考え、事業を中止と判断するのは難しく、ギリギリの段階となって中止を決断した事業もございました。この判断を下すのは会長である私自身ですが、非常に苦慮しました。延期できる事業もあれば中止とせざるを得ない事業もありました。特に新入会員例会は新入会員達がこの期でなければ一生体験できない事業です。このチャンスを自分が奪ってしまったのではないかと今でも考える時があります。しかし、仕事あつての竹の子活動、会員の身に何かあつて家庭まで影響を及ぼすわけにはいかないというのが私の判断の決め手でした。いままで竹の子会の歴史の中で予想出来ない事態が自分

の身に降りかかってくるとは64期が始まったころには考えられませんでした。

しかし、この64期会長としてのこの経験は自分しか体験出来ません。このような状況に置かれた時どう対応するか、どのような反応があるのか、何に配慮すべきか。私の人生において貴重な経験となりました。他の方には経験出来ないものだと考えます。来期65期は直前会長として、また65周年実行委員長も拝命しておりますのでこの経験を活かし、逆境と悔しさをバネに変え、大成功に導けるよう尽力していく所存です。

また人の上に立つものの在り方とは自分なりに感じたことを述べさせて頂くと、これといった答えはないなかで進むべき道を示せる人間であるべきだと感じました。準備や計画などは担当の会員が行ってくれます。自分は只々、それに感謝する事しかできません。

その中で何が竹の子会らしいのか、その人の人生の中でこうすれば大きな経験となるのか。そのような部分に配慮し、旗をふって方向性を示し、やるべきことを教えるというのがリーダーとしてふさわしいのではないかと1年間を終えて感じるところで。駄文になりましたが正直な感想です。

64期大垣竹の子会の会長職を終えて、自分自身がどう変わったかはまだわかりません。残り5年の活動の中で少しでも今期得た経験を会員達に伝えていきたいです。私の器はもっと大きくなり、立派な人格を形成し、まだまだ志は高くなっていく事をお約束して64期会長職満了のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

第65期 会長あいさつ

第65期スローガン

「継往開来 ～大志を抱け！感謝の心と共に～」



第65期
会長

今西 勇人

この度、65期大垣竹の子会会長を務めさせていただきます60期入会の今西勇人です。65年という永きにわたり諸先輩方が築き上げ、継承されてきた伝統と歴史、そして竹の子魂を引き継ぐという事は大変光栄であると共に、改めて責任の重大さを痛感し身の引き締まる思いで一杯です。

半年前に会長予定者として任命されましたが、新型コロナウイルスの影響で事業計画はおろか、委員会活動もままならないまま、web会議やLINEなどを駆使し何とか竹の子会の65期を迎える事が出来ました。今までに経験した事のない状況下の中でも柔軟に対応し、困難を乗り越え無事に65期のスタートが切れたのも常任メンバーをはじめ、各会員の皆様、また特別会員の皆様のご協力のお陰だと思えます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

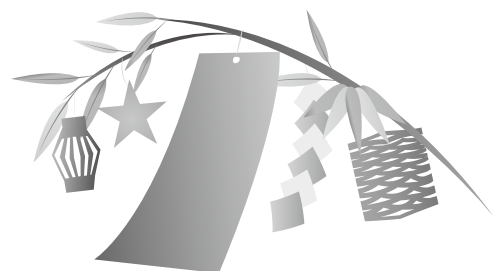
今回の件も含めて改めて深く感じるのは、困った時や、悩んでいる時に必ず助けてくれる仲間や諸先輩方がいる事は何よりも代え難い財産だと再認識しました。この事は短時間で創り上げられる事ではありません。また誰かが教えてくれる訳でもありません。自分で感じ実践し、学ぶ事で築きあげられるのだと思えます。

周りの人達が何かをしてくれるのではなく、自分自身が周りの人達に何が出来たかを考えていく。そんな人間味溢れるこの会の魅力を更に皆さんと

共有し、後輩達に伝えていきたいと思い、今期のスローガンを「継往開来 ～大志を抱け！感謝の心と共に～」とさせていただきました。「継往開来」とは、先人の事業を受け継ぎ、未来を切り開く。また過去のを継続し、それを発展させながら未来を開拓するという意味があります。65周年を迎える青年団体は全国を探してもそう多くはないと思います。これだけの歴史と伝統を受け継いできた竹の子魂を次の世代に繋ぎ、地域のため、仲間のため、より良い未来のために少しでも貢献出来るような事業を行っていききたいと思います。

今期は65周年という節目の年になります。65周年記念事業及び記念式典の開催を予定しており、実行委員長として川上祐輔君を選出しました。地域をより盛り上げ、竹の子会の更なる魅力を発信出来る事業を計画していきたいと思っておりますのでぜひ皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

最後になりますが、この素晴らしい好機を与えて下さいました全ての皆様に感謝すると共に、この機会を最大限に活かし、更なる竹の子会の発展と成長に貢献出来るよう邁進していくことをお約束して私の挨拶とさせていただきます。



第64期 卒業生あいさつ



第56期
入会
赤尾 龍磨

56期入会の赤尾です。今年度、無事に竹の子会卒業を迎えることができ、本当にうれしく思います。

思えば、入会するにあたり、当時職場の上司であったOBからお声をかけていただき、あまり会の活動のこともよくわからないまま入会いたしました。他の

OBからは、楽しいし、人間関係が広がり、自分のためになると聞いていましたが、入会当初は仕事が忙しく、あまり活動にも参加できず、楽しさがわからないまま、だんだんと会に行きづらい感じになってしまい、半分幽霊会員状態になってしまったことで、当時の先輩方にもご迷惑をおかけしていました。

しかし、その当時一緒の委員会であったある先輩会員から、しつこいくらいに声をかけていただき、委員会にも参加しやすい状況を作ってくれ、会に参加するうちに活動もやっと楽しくなってきました。それからは、委員長や事務局長など、参加していなかったときは考えられなかったことも経験させていただき、また本当に良い後輩にも恵まれ、あまり懇親会には参加していませんが、自分なりに本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。

最後の約半年は、思いがけないコロナの影響で最後の締めくくりとしての活動ができなかったことは残念ですが、これからもこの会で培った人間関係や経験などを大事にしながら、今後の生活にも活かしていきたいと思います。本当に9年間お世話になり、ありがとうございました。



第58期
入会
小林 明人

新型コロナウイルスの流行により次々と事業が中止になり、集まることも断念せざるをえない、そんな状況での卒業のご挨拶になります。会の仲間と顔を合わせ、協力しあって事業を進めることは、私にとって当たり前の日常になっていました。胸に穴が空いたような淋しさに、

竹の子会が自分にとって重要な居場所であったことを思い知らされています。

会員は、活動のために時間と労力を割き、ときに人間関係や対立する意見の調整に悩まされます。苦勞がすぐに仕事で報われるわけではありませんし、むしろ仕事や家庭との両立に苦慮することもまれではありません。何の得もないのに必死で努力するのが竹の子会の活動です。なぜそんな苦勞をわざわざするのか。それは自らの人格を磨き、コミュニティーに貢献し、仲間との絆を深めることが人生を豊かなものにする道であると信じるか

らです。会の基本目標をごく自然に実践し、真摯に活動に取り組む仲間の姿に、私は尊敬の眼差しを向けていました。

竹の子会は地域の中核を担う人材を多数輩出しています。会の活動もさることながら、PTA、消防団、慈善団体、企業、行政、議会などにおいて、会員・OBは目覚ましい活躍をされています。彼らが魅力的なのは名声を得ているからではありません。困難な現実と格闘しつつ理想を追求することで自己実現を果たしておられるからです。私もそんなふうになりたいと素直に思いますし、そのような人材を育てる竹の子会の一員であったことを誇らしく思います。

最後に、65期はコロナに注意しつつ事業を再開されるでしょうから、従来にない苦勞が予想されます。その困難を乗り越える努力こそが活動の核心です。どうか歩みを止めず、これからも個人の成長と地域の発展に貢献し続ける竹の子会であり続けてください。

第64期 卒業生あいさつ



第53期
入会

山下 洋平

53期入会の山下洋平です。早いもので大垣竹の子会に入会させていただいてから12年の月日経ちました。多くの方に支えられ無事卒業を迎えることができました。ありがとうございます。振り返ってみると色々ありましたが、やはり大垣つどいの会長をさせて頂いたことが一番の思い出です。重大な責任を感じながらたくさんの方に意見を頂き、なんとか全うできた一年でした。つどいで他の会のメンバーと仲間になれて事業に皆一生懸命取り組んでもらえてよかったのですが、その中でも竹の子会メンバーが親身になって時にはぶつかったり、助けてくれ

たり、叱ってくれて、やはり竹の子が一番だなと思いました。

入会した当時は67人の会員でしたが今期は34人、時代は一気に変化していきました。色々な意見を頂き勉強になったと思いますが、その中でも一番大きかったのは出会いです。私も竹の子会に入ったことで竹の子会員、特別会員、つどい会員など本当に色々な人と出会うことが出来ました。この出会いがかけがえのない財産です。

これから新型コロナの影響で更に厳しく変化していく時代になると思いますが、皆様が竹の子を通して多くの人と出会い成長して大垣竹の子会が発展していく事を祈念いたします。12年間ありがとうございました。



第57期
入会

渡邊 光輝

57期入会の渡邊光輝です。8年間皆勤・全て自費で活動してきた私が途中退会することなく卒業まで頑張ってきたのは、お世話になった諸先輩方、頼もしい同期、活気溢れる現役会員の支えと、何より私自身の努力があったものだと思います。また、様々な委員会だけではなく、59期奉仕委員長、60期副会長、47期つどい副会長 第34回水門川万灯流し実行委員長を務めたことで、私自身の成長と可能性、そして今後の課題が明確になったと思います。今思えば、竹の子会の3大目標とはそれ自体も大事ではありますが、その先に待ち受ける自分自身の困難を乗り越えていくためのヒントなのではと考えています。特に人に助けを求める時、どう願

いすれば助けてもらえるか？どんな言葉で、どんな行動を取ればその人が自分のために動いてくれるかを精一杯考え、足掻き、学ぶ場がこの竹の子会の青年活動であったのだと思います。

最後になりますが、私がこれからの竹の子会を担う現役会員の皆様に伝えたいことは、『全ての事に最善を尽くしてほしい』ということです。竹の子会は様々な事業を通じて、仲間と共に自分自身の成長と可能性を育てる場ですので、手を抜くとそれなりの成果しか得られませんが、最善を尽くすことで想像以上の成果を得られることは皆さん分かっていると思いますので、これからも仲間と共に最善を尽くすために提案し、議論し、目標に向かって突き進んで頂きたいと思います。

8年もの間、私の背中を支えてくださった全ての皆様に感謝を申し上げ、私の卒業の挨拶とさせて頂きます。有難うございました。



会員オリエンテーション

日 時：令和2年7月11日（土）
場 所：青年の家講堂・ひさご

7月度例会(通常総会・懇親会)

日 時：令和2年7月22日（水）
場 所：大垣フォーラムホテル

8月度例会(水門川万灯流し)

中止

第52回交通遺児夏のつどい

日 時：令和2年8月23日（日）
場 所：東映太秦映画村